

科目名		建築設備施工 II			
担当教員		矢花 寧		実務授業の有無	○
対象学科	建築設備システム科	対象学年	2	開講時期	前期
必修・選択	必修	単位数		時間数	48
授業概要、目的、授業の進め方	1. 座学→演習→レポート→添削指導を行うことにより、学習レベルを向上させる。 2. 建築設備技術者として、社会に出て即対応できるように基礎知識を身に付ける。 3. 公的資格を取得することを意識してもらい、そのために必要な事項を解説する。				
学習目標 (到達目標)	建築設備工事の受注から竣工に至るまでの工事の流れを理解して、各施工段階でのチェックポイントを理解する。社会へ出て実務として展開できるように、写真や図表を利用して解説する。主教材の他に、補助教材および配布プリントを利用して、用語の理解を深める。タイミングが合えば、現場見学を実施したい。				
テキスト・教材・参考図書・その他資料	1・建築設備工事の進め方 森村設計 著 (株)市ヶ谷出版社 2・図解2級管工事施工管理技士試験合格必勝ガイド新訂第2版 彰国社				
NO.	授業項目、内容		学習方法・準備学習・備考		
1	設備工事の仕組み		方法：配布資料・教材を使用して建築設備工事の仕組みを理解する。 準備学習：テキスト・教材の予習をする。		
2	施工着手前		方法：教材・補助教材を使用して工事に着手する前の準備作業を理解する。 準備学習：テキスト・教材の予習する。		
3	躯体工事		方法：教材・補助教材を使用して躯体(R・C及びS造)に関する設備工事の特徴・重要事項を解説し、理解を深める。 準備学習：テキスト・教材の予習をする。		
4	配管工事		方法：教材・補助教材を使用して配管工事の特徴と要点及び重要事項を解説する。過去問題を利用して基本を理解する。 準備学習：テキスト・教材の予習をする。		
5	ダクト工事 配管・配線工事		方法：教材・補助教材を使用して工事の特徴と要点を解説し、過去問題にて応用力を深める。 準備学習：テキスト・教材の予習をする。		
6	中間試験		これまでに学習したことの確認試験 レベルの個人差が著しい場合には、適宜個人指導を行う。		
7	主要機器工事		方法：教材・補助教材を使用して、機器名を理解する。据え付け設置工事が各機器により異なる為、各工法を理解する。 準備学習：テキスト・教材の予習をする。		
8	仕上げ工事 外構・屋外工事		方法：教材・補助教材を使用して仕上げ機器を理解し、外構においては、インフラ接続の要点を解説する。 準備学習：テキスト・教材の予習をする。		
9	試運転調整 竣工		方法：教材・補助教材を使用して、設備工事の試運転調整の重要性を理解する。竣工検査書類を解説する。 準備学習：テキスト・教材の予習をする。		
10	最終試験		これまでに学習したこと最終試験		
評価方法・成績評価基準			履修上の注意		
平常点	課題・レポート	定期(中間・期末)試験	設備工事の着手から竣工に至るまでの流れと基本事項を理解する。他の教科と関連する項目が沢山あるので、それらの教材も利用して、理解度を高めていく。		
10 %	20 %	70 %	%		

成績評価基準は

A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。

併用して、往時区と同様とする。

実務経験教員の経歴

一級建築士として30年以上現場施工管理に携わり、設備設計一級建築士として8年以上設計監理業務に携わってきた。